

(5) 総合科目Ⅲ

総合科目Ⅲ 科目群D

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-----------------------|------|-----|--------|-------|------|-------|---|---|--|
| 1D09021 | 地球環境変動と地球規模課題の科学論 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 金3 | 2C404 | 鈴木 石根 | (1)国連が設定した「国際社会が取り組む地球規模課題(Sustainable Developmental Goals (SDGs))」を導入において紹介し、現代社会が直面する地球規模の環境問題について、問題意識を受講学生と共有する。(2)大気、海洋、陸上環境に大まかに区分けし、それぞれの環境領域で直面する課題について、学術的側面から専門家・研究者による講義による解説を実施する。 | (生物開設) 【受入上限数120名】 |
| 1D09031 | 環境変動影響と持続可能社会構築の科学技術論 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 金3 | 2C404 | 鈴木 石根 | 地球環境課題・問題の現状の理解を基盤に、その課題・問題を具体的にどのように解決していくかを考え、どのような科学技術の開発と発展が有効であるかを学び、「問題解決の方策」を理解する必要がある。この視点がなければ畢竟「机上の空論」になりがちな地球規模の環境問題対応となる。そのため、環境修復に有効な科学技術の現状を理解させることも非常に有意義である。アカデミアや国際機関、民間企業、NPOなど、国際社会において環境問題や持続可能社会の構築に貢献している科学技術を紹介し、それらに対する理解を深めるための講義を実施する。 | (生物開設) 【受入上限数120名】 |
| 1D09313 | 生命環境科学実習A | 3 | 1.0 | 3・4 | 夏季休業中 | 集中 | 2C403 | 田中 健太、和田 茂樹 | 地球環境課題・問題の現状を理解させるため、山岳科学センター官平高原実験所、下田臨海実験センター等の施設を実際に訪れ、海と山のフィールドで生態系や環境を実地で学び、対策を自ら考え、受講生の将来に生かせる実習を行う。日程は集合・解散日を含めて7日間を予定している。この実習によって、卒業研究や大学院進学後の研究など、更にハイレベルな学習への興味とモチベーションを高めることを目的とする。 なお、「地球環境変動と地球規模課題の科学論」で学んだことを現場のフィールドで自らの目で見て体験して考えることを目指した実習のため、当該科目を履修していることが望ましい。また、実習先の受入れ人数に制限があるため、人数が多い場合は科目を受講した学生を優先する。 春ABの講義科目を履修した学生を主対象に引き続き実習を行う。 | (生物開設) 9/8-9/14 【受入上限数10名程度】 |
| 1D09323 | 生命環境科学実習B | 3 | 1.0 | 3・4 | 秋学期 | 応談 | 2C403 | 鈴木 石根 | 地球環境課題・問題の現状を理解させるため、山岳科学センター、下田臨海実験センター、国連大学、マレーシア日本国際工科院、タスマニア大学、マードック大学などの施設やフィールドを実際に訪れ、実地で現状を学び、対策を自ら考え、受講生の将来に生かせる実習を行う。日程は、国内は事前、事後指導を含め4日間程度、海外は1週間程度を予定している。この実習によって、卒業研究や大学院進学後の研究など、更にハイレベルな学習への興味とモチベーションを高め、国内、海外研修の機会を提供することによって、将来、研究機関、教育機関における研究職や教育職に興味を持つ学生に高度な勉学の機会を提供する。 なお、「環境変動影響と持続可能社会構築の科学技術論」で学んだことを現場のフィールドで自らの目で見て体験して考えることを目指した実習のため、当該科目を履修していることが望ましい。また、実習先の受入れ人数に制限があるため、人数が多い場合は科目を受講した学生を優先する。 | (生物開設) 【受入上限数 国内10名程度、海外5名程度】 |
| 1D11011 | ジオサイエンスのフロンティア | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 火4 | 3A207 | 上松 佐知子、鎌田 祥仁、氏家 恒太郎、興野 純、角替 敏昭、上野 健一、八反 地 剛、加藤 弘亮、堤 純、釜江 陽一 | 地球科学(Geoscience)は、地球内部と地球表層における固相、液相、気相の物質およびその移動、そして人間活動に関する実証的な学問である。本講義においては、地球科学における最新の研究結果を、わかりやすく解説する。 | (地球開設) 【受入上限数120名】 |
| 1D12011 | 数学の最前線:未解決の問題への挑戦 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋C | 月1,2 | 3A403 | カーナハン スコット ファイレイ | 数学は常に変化する未解決問題の宝庫である。そのような問題は数学の内部発展の必要性から生じ、また社会的要請からも生まれ、新しい数学を生み出す。このような数学の創造と発展のダイナミクスを、幾つかの話題を通じて解説する。 | (数学開設) 【受入上限数120名】 |
| 1D13011 | 現代物理学入門 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 月1 | 1E102 | 金谷 和至 | 物理学を専門としない学生に向け、現代物理学の基礎的な概念や考え方を講義する。基礎的方程式を使い、簡単な物理現象やその法則がどのように表現されているかを学び、方程式を解くことにより何が予言されるかを概観する。 | (物理開設) 【受入上限数120名】 |
| 1D14024 | 事例に学ぶ環境安全衛生と化学物質 | 4 | 1.0 | 3・4 | 夏季休業中 | 集中 | 1D201 | 佐藤 智生 | 人類は多くの有用な化学製品を製造し利用しているが、そのためには危険で有害な化学物質でも取扱う必要がある。本科目では、総合科目Ⅱ「安全衛生と化学物質」において解説された化学物質とその取扱作業の危険性、有害性及び環境影響を理解した学生を主対象に、化学物質を取扱う際に留意すべき事項や手法を具体的な事例に基づいて講義する。また、グループ討論形式により危険予知訓練(演習)も行う。本科目を通して、化学物質取扱作業に起因する事故、健康障害、環境汚染の具体的防止手法を理解し実践できる人材を育成する。 | (化学類開設) 9/25(水)、9/26(木)の各9:00-11:45および13:00-17:15、試験は9/27(金)6限 実務経験教員 【受入上限数120名】 総合科目Ⅲ「実践・安全衛生と化学物質」の単位を修得した学生は、履修申請できない。 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|--------------------------------|------|-----|--------|------|------|--------|---|---|--|
| 1D15011 | 現代物理と先端工学 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 金1 | 3A209 | 関口 隆史 | 20世紀に、量子力学を始めとした大きな発展を遂げた物理学は、その後も目覚ましい発展を続け、現代の工学に大きな影響を与え、高度情報化社会を支えるさまざまな製品を生み出している。本講義では、現代物理学が、どのように先端的工学に活かされているかを、いくつもの事例を挙げて紹介し、物理学を始めとした自然科学が、工学を通して社会にいかに関与しているかを解説する。3、4年生が、卒業後の進路を選択する際にも大いに参考となる講義をめざす。 | (応理開設) 応用理工学類学生の受講は認めない。【受入上限数120名】 |
| 1D15021 | 社会問題を捉えた材料開発とその応用 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 月1 | 3A209 | 金 熙榮 | 現代の科学技術分野におけるめざましい進歩には、常に新物質・新素材の開発が中心的役割を果たしてきた。本科目では、物質・材料科学に焦点を当て、医療・福祉、エネルギー、環境、電子光デバイス、航空宇宙などの最先端の工学分野における物質・材料開発の状況や今後の課題について解説する。各自の専門分野をベースにより広い視野から高齢化、エネルギー問題、環境問題、資源問題など様々な社会的な課題を認識し、その解決に向けた材料科学に対する幅広い知識を身につける。 | (応理開設) 応用理工学類学生の受講は認めない。【受入上限数120名】 |
| 1D16011 | 環境開発・エネルギー総合工学 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 金1 | 3A308 | 文字 秀明 | 一大学講義と自動車工学-工学システム学類開講の講義で得られた知識が自動車の設計/製作にどのように使われるかを例として示し、大学で習う基礎的な学問の必要性と重要性、社会との関連性を再確認する。 | (エシス開設) D科目【受入上限数120名】 |
| 1D16021 | 知的なシステムをつくるI | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 水6 | 3A403 | 伊達 央 | 近未来の生活環境において人間に使いやすく役立つ知的システムを実現するための、様々な基礎的技術(メカトロニクス、センシング、人工知能、機械学習、ビッグデータ分析、自然言語など)とその応用例(人支援、コミュニケーション支援、デジタルコンテンツなど)について解説する。また、家庭用ロボット・アンドロイド、IoT(internet of things)、デジタルファブリケーション、eコマース、メディアアートなどの興味深い例をとりあげて、これらの知的なシステムが、私たちのライフスタイルや、人と人の関わり方をどのように変えていくかについて様々な視点から考察する。 | (エシス開設)【受入上限数120名】 |
| 1D18011 | マルチメディアの舞台裏:コンテンツを創るための実世界指向技術 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春A | 月1,2 | 3A312 | 古川 宏 | インターネットを介して、情報家電・携帯端末・パソコン・放送が融合している。このマルチメディアシステムを生活において最大限に活用するため、その技術的・社会的な舞台裏を覗いてみよう。本科目では、マルチメディア・コンテンツの制作に関する注目性、コンテンツの生成技法、コミュニケーション技術、ヒューマンインタフェース設計技術などに関し、具体的な応用例などを用いて説明する。 | (情報開設)【受入上限数120名】 総合科目II「マルチメディアの舞台裏III」の単位を修得した学生は、履修申請できない。 |
| 1D19021 | メディア処理の数理 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春A | 月1,2 | 3A409 | 藤澤 誠 | ICT社会に生きる我々は日々さまざまな情報メディアに囲まれ、それらと密接に結びつきながら日常生活を送っている。本科目では、映像やCGを含む画像系メディアおよび言語メディアを取り上げ、各メディアがどのような計算機処理を経て生活の場へ提供されているかについて、数理的な側面を交えつつ平易に概説する。 | (創成開設)【受入上限数120名】 情報メディア創成学類学生の受講は認めない。 |
| 1D21011 | 新しい基礎医学における神経科学と免疫研究 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 火1 | 臨床講義室A | 武井 陽介 | 神経科学と免疫学はともに環境に個体が適応するために必須のシステムである。この科目では、神経科学と免疫学分野の研究を行っている研究者から最先端の基礎医学トピックを学ぶ。研究成果や研究をすすめるロジックを深く理解し、それらがいかんにかして疾患の病態理解や治療・予防につながるのかについて考察を深める。生命科学に関心がある医学類以外の学生にも聴講を勧める。 | (医学開設)【受入上限数160名】 |
| 1D21021 | 新しい基礎医学における生命科学技術とがん・幹細胞 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 金1 | 臨床講義室A | 武井 陽介 | 生命科学技術の進歩は日進月歩であり、がん・幹細胞分野の基礎研究の進歩とあいまって更なる臨床応用が期待されている。この科目では、技術開発とがん・幹細胞分野の研究を行っている研究者から最先端の基礎医学トピックを学び、研究成果や研究をすすめるロジックを深く理解し、それらがいかんにかして疾患の病態理解や治療・予防につながるのかについて考察を深める。生命科学に関心がある医学類以外の学生にも聴講を勧める。 | (医学開設)【受入上限数160名】 |
| 1D23011 | 生命科学・医学におけるテクノロジーの進歩 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋C | 月1,2 | 5C316 | 二宮 治彦, 森川 一也, 正田 純一, 山内 一由, 會田 雄一, 磯辺 智範, 小池 朗, 栗田 尚樹 | 生命科学におけるテクノロジーはめざましく発展しており、医学分野におけるテクノロジーの進歩は、疾病の診断・治療に素早く還元されている。本講義では、生命科学・医学の専門領域におけるテクノロジーに焦点を当て、生体の機能の評価における最新のテクノロジーを学び、またそれをもとにした最先端の疾病診断・治療について理解する。 | (医療開設)【受入上限数120名】 |

総合科目III 科目群E

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-------|------|-----|--------|------|------|-------|--------|--|-------------------|
| 1E01011 | 言語と社会 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋C | 月1,2 | 1C210 | 佐々木 勲人 | 我々は言語によって世界を捉え、思いを表現しながら社会生活を営んでいる。言語と社会の関係に関わるさまざまな側面について、特に教育・文化・情報等の学際的な視点から考察する。 | (人文開設)【受入上限数120名】 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-----------------|------|-----|--------|------|------|-------|---|---|---|
| 1E01021 | 食文化からみる民族と歴史 | 1 | 1.0 | 3・4 | | | | | 私たち人間にとって生の根源である食とそれにつながる食文化は、民族によって実に多様で、そこには豊かな世界が形成されている。本授業では、「食」をキーワードに、民族とその背後にある文化を掘り下げ、さらにそこから歴史をどう読み取るのか、また、食文化の中に多様性/共通性が生まれた背景は何であるのかに迫っていくことを目的とする。 | (人文開設) 西暦偶数年度開講。 【受け入れ上限120名】 |
| 1E01034 | 現代社会の哲学的考察 | 4 | 1.0 | 3・4 | 秋C | 水5,6 | 2C404 | 土井 裕人 | 現代社会の諸問題について、哲学・思想の視点から掘り下げて考察する。 | (人文開設)【受入上限数80名】 西暦奇数年度開講。 |
| 1E02011 | 変動する地域を捉える | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 月2 | 2B309 | 木村 周平 | いつの時代・社会においても、人々の生活はそれぞれの地域のなかで、その地域をとりまく環境とのかかわりのなかで営まれてきた。しかし現代、政治や経済、あるいは文化の枠組みは大きく変動しつつある。そのような状況においては、地域というものも固定的に捉えるのではなく、問題に応じた時間的・空間的広がりを設定し、そのなかでそれぞれの営みを追いかけていく必要があるだろう。本講義では、主に日本とアジアを中心とする具体的な事例をもとにしつつ、変わりつつある地域を捉えるための地理学・民俗学・文化人類学・歴史学からの捉え方を紹介し、現代社会に対する学際的な理解を深める。 | (比文開設) 西暦奇数年度開講。 【受講制限数120名】 |
| 1E02021 | 破壊と再生の歴史・人類学 | 1 | 1.0 | 3・4 | | | | | グローバルな現代文明を生きる私たちは、社会的暴力、あるいは自然災害、地球規模の環境破壊に至るまで、さまざまな形態をとる破壊に直面している。同様の状況は、人類史における過去の変革期にもしばしば出現した。本講義では、かかる変革期に発生した自然災害および戦争に注目し、それらによる破壊の状況と形態、また、破壊後における再生の方法を検証し、現代の私たちに課されている問題を考えていく。 | (比文開設) 西暦偶数年度開講。 【受講制限数120名】 |
| 1E02031 | 比較文化の探求—名著のすすめ— | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 月2 | 2C404 | 白戸 健一郎 | 人文・文化研究において、文献との出会いは重要である。感銘を受け、学問的に刺激された文献は、研究上のみならず、その人の生き方にも影響を与えることがある。本講義では、グローバル時代において比較文化を探究する教員が自ら選んだ、学生必読の文献を紹介しつつ、高度かつ専門的な視野から文化を読み解く方法を考えていく。 | (比文開設) 【受入上限数120名】 |
| 1E03011 | 日本とは何かIII | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 月2 | 2B507 | 沼田 善子 | 現代の私たちが自明のものとしている「日本語」「日本文化」の概念に、近年の研究動向を踏まえつつ再検討を加えることで、「日本とは何か」を考えていく。 | (日日開設) 日本語・日本文化学類生の履修を認めない。 【受入上限数120名】 |
| 1E04011 | 国際社会における戦争と平和 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 月1 | 1C310 | 南山 淳 | 本講義では、国際社会における戦争と平和の構造的性質について、国際紛争が発生するメカニズム、グローバル化する安全保障、平和構築の条件等、具体的な諸問題を考察することで、現代国際関係に対する理解を深める。 | (社会開設) 西暦奇数年度開講。 【受入上限数120名】 |
| 1E04021 | 個人情報保護 | 1 | 1.0 | 3・4 | | | | | 個人情報保護制度と現状の問題点について解説する。 | (社会開設) 西暦偶数年度開講。【受入上限は一応350人としておくが、仮に超えたとしても受講制限はしない予定。】 2019年度開講せず。 |
| 1E06011 | 学校を考えるIII | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 月2 | 2C102 | 佐藤 博志, 川口 純, 江角 周子 | これからの学校と教師の在り方について論究する。はじめに、学校をめぐる社会変動と教師の専門性論について日本を中心に解説する。次に、開発途上国の学校と教師について講義する。最後に、教育相談、カウンセリングに焦点を当てて、教師の実践技法について、理論的裏付けもふまえながら、解説・実践する。 | (教育開設) 人間学群学生の受講は認めない。講義の一部にディスカッションを取り入れるため、受入上限数を80名とする。 平成28年度と平成27年度に科目番号1B06031「学校を考えるIII」(総合科目11)の単位を修得した学生は、この授業の履修を認めない。 |
| 1E17011 | 経済学入門III | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋C | 火3,4 | 3A306 | 佐野 幸恵, 秋山 英三 | ミクロとマクロをつないできた統計物理学を背景に、近年発展してきた「社会経済物理」について、その歴史的な流れから最先端の話題まで紹介します。 | (社工開設)【受入上限数120名】 |
| 1E25011 | 社会のなかの建築デザイン | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋A | 火1,2 | 5C301 | 貝島 桃代, 加藤 研 | デザインに何が出来るのか? 社会との関わりについて、建築デザインの観点から、デザインの可能性を探る。 | (芸術開設) 平成28年度までの「社会のなかのデザイン」を修得済みの学生は履修できません【受入上限数78名】 |
| 1E25021 | スポーツ芸術表現学 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 火6 | 5C216 | 太田 圭, 嵯峨 寿, 田中 佐代子, 大原 央聡, 田島 直樹, 山本 美希 | 「スポーツ芸術」とは「スポーツをテーマとした芸術作品」のことで、本授業では、これらを「創る」「観る」「支える」という3つの立場から捉える。オリンピックの芸術競技をはじめとした美術史におけるスポーツ芸術、2020年東京オリンピック・パラリンピックの「文化プログラム」、現代におけるスポーツとデザインの関わり等を、アーティスト・デザイナー・漫画家等の多様な視点から学び、新しいスポーツ芸術の表現について考える。 | (芸術開設) 【受入上限数120名】 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|---------------------------|------|-----|--------|------|-----|-------|----------------|--|---------------|
| 1E90011 | Topics in Social Sciences | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 水1 | 1C306 | モグス アブギルマ, 関能徳 | This course deals with advanced and contemporary topics in social sciences from the conceptual, practical, and public policy perspectives. The first half of the course will cover topics ranging from economic development, inequality and poverty, inter-and-intra national migration, political economics of public policies, sustainable development, and the prospects as well as the challenges of globalization. In the second half of the course, students will read, evaluate, and discuss five published papers in the field of political science. The goal of this exercise is to understand the fundamental goals of social science research: finding and solving interesting puzzles in order to improve our understanding of the world. The topic of these five readings includes labor strikes, party system change, colonialism and development, vote buying, and censorship in dictatorships. | 英語で授業。 JTP |

総合科目 III 科目群F

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|----------------------------------|------|-----|--------|------|------|-------|--|---|--|
| 1F05014 | 国際学を学ぶIII | 4 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 月1 | 3B202 | 大友 貴史 | グローバル化が進捗し、環境問題や人口問題が深刻さを増すなか、国際社会で生じる諸現象について理解することが求められている。本講義では、グローバルな対応が求められる国際社会の諸課題に対して、人文・社会科学や情報・環境学における様々な視点や方法からアプローチしつつ、今後の国際社会の在り方について理解と考察を深めることを目的とする。国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境学に関わる基礎知識を発展させるため、この授業ではPBL (Project-Based Learning)あるいはグループワーク形式を採り、グループごとに設定したリサーチトピックについて、課題の設定、課題の解決に向けた文献講読や資料収集、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行い、理解を深める。 | *国際総合学類生の受講は認めない。 (国際総合学類開設) 【受入上限数60名】 |
| 1F07011 | 心のしくみを解き明かすニューロサイエンス | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 月2 | 3A402 | 高橋 阿貴, 山田一夫 | 21世紀の科学の最大のテーマである「こころ」の理解を目指すニューロサイエンス(神経科学)は、心理学、行動学、分子生物学、細胞生物学、解剖学、生理学、薬理学、臨床医学、工学、社会科学等を包括する学際的な学問領域として現在も発展し続けている。本講義では、ニューロサイエンスにおける最新の研究知見を紹介し、今まさに明らかにされつつある「こころ」のメカニズムについて理解を深める。なお一部の講義は、ニューロサイエンスでの共通言語である英語で行う。 | (心理開設) 【受入上限数200名】 |
| 1F08011 | 障害科学から見た社会—インクルーシブ社会の一員としての「自分」— | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 金4 | 2B309 | 岡 典子, 山中克夫, 名川 勝, 竹田 一則, 野呂文行, 柘植 雅義, 八重田 淳, 米田 宏樹 | 「人間が社会的に自立するとはどういうことか」、「社会に参加し、自己実現を図るとはどういうことなのか」について、障害のある人への教育的・福祉的支援や、障害のある人と社会との関係を学ぶことをとおして、受講生に考えてもらおう。さらに、誰もが社会参加し自己実現を図ることのできるインクルーシブ社会の実現のために、受講生各人が社会の構成員として自分にできることを、自分の学士力に照らして考える機会を提供する。 | (障害開設) 障害科学類生の受講は認めない。また、総合科目II「障害とともに生きるIII」及び人間学群コア科目「障害科学II」を履修済みの者の受講も認めない。 【受入上限数120名】 |
| 1F17021 | 都市・地域・環境を探るIII | 1 | 1.0 | 3・4 | 春C | 火1,2 | 3A402 | 雨宮 護, 大澤 義明, 藤井 さやか | 近年の世界的な社会経済状況の激変により、私たちの住宅や、生活する都市、地域の環境は様々な変化の圧力を受けている。この変化を受動的に受け止めるのではなく、変化のメカニズムを理解し、望ましい環境を形成する主体的な知力を身につけることが求められている。本科目では、総合科目「都市・地域・環境を探るI,II」の発展形として、都市計画やまちづくりの実践事例を手掛かりに、社会の構成員である私たちが都市・地域・環境にどのようにかかわっていくべきかを考える。 | (社工開設)平成26年度以前に総合科目II「1C17121都市・地域・環境を探るIII」の単位を修得した学生は履修不可。 【受入上限数120名】 |
| 1F20011 | 記録遺産学 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春C | 月1,2 | 7A205 | 白井 哲哉, 辻 泰明, パールイ シェフ エドワルド, 江前 敏晴, 田中 友香理, 石田 大平 | 文化財や文化的な資料を対象に、どのように記録を作成し、学術資料として管理していくかを解説する。記録された文化財(主として文字資料・映像資料)を取り上げ、アーカイブズ学・博物館学の視点から、古文書を含む歴史的公文書等・記録映像・文化遺産的資料(石碑・拓本・竹簡・木簡等)を取り上げ、ドキュメンテーション(記録管理)の方法論を学ぶ。 | (知識開設)【受入上限数120名】 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|---------------|------|-----|--------|------|------|-------|---|---|--|
| 1F20024 | デジタルクリエイティブ基礎 | 4 | 1.0 | 3・4 | 春C | 水5,6 | 7C102 | 近藤 祐爾 | デジタルコンテンツ制作に必要とされる基礎技術を学びます。 普段何気なく目にしているWeb、広告、ポスター、カタログ、雑誌・書籍、TVC、映画、製品パッケージ、工業製品からプレゼンテーションに至るまで、さまざまなビジュアル表現が使われています。InstagramやTwitterなどのSNSへの画像アップロード、LINEスタンプの利用、YouTube動画のアップロードなど、日常生活においてビジュアル表現を活用する場面も増えています。 Instagram向けの画像加工アプリでは一体どんな風に画像が加工されているのか、LINEスタンプはどのように作られているのか、YouTube向けに動画コンテンツを制作したいときどんなことを知っておくとよいのか、デジタルコンテンツにおいてビジュアル表現を活用するには、クリエイティブ技術の理解が必要になります。現在、ビジュアル表現に関わる制作の大半はデジタル化されているので、デジタルクリエイティブ技術の基礎を理解することで、よりよいビジュアル表現のための知識が習得できます。 | (情報学群開設)【受入上限数60名】/ 毎回7A106 に集合 TWINS に履修申請済みの初回授業出席者からくじ引きによって受講調整を行います。/ テクニカルコミュニケーター (TC) 専門課程「デザイン・表現設計」分野の科目。 |
| 1F22011 | 健康と社会 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春A | 月5,6 | 5C216 | 柴山 大賀, 竹熊 力ツマタ 麻子, 阿部 吉樹, 伊藤 智子, 萩野谷 直美 | 現代の少子高齢化の社会構造やストレス社会において、人々に様々な健康影響が生じている。いくつかの健康問題を題材に、社会的要因と健康との関連性について考えることをとおして、働き方や生活の仕方を見直す機会とし、今後の社会や自身のあり方を探る。 | (看護開設)【受入上限数120名】 |
| 1F24011 | スポーツジャーナリズム | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 月6 | 5C213 | 嵯峨 寿, 福原 直樹 | スポーツの普及・発展に多大な影響をおよぼす「スポーツジャーナリズム(放送、新聞、出版など)」について、それが用いる表現、手法、取材、編集などを切り口に、海外や過去の事例との比較による分析と考察を通じ、わが国のスポーツジャーナリズムの現状と喫緊の課題を浮き彫りにし、これからの望ましいあり方を探る。 | (体育専門学群開設)【受入上限数120名】 |
| 1F24212 | スポーツと平和・非暴力 | 2 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 月2 | 5C316 | 河合 季信 | スポーツは、言葉や人種、宗教などを超えて人々が交流できるという機能を持つ一方で、実践の現場では、選手間、指導者と選手との間、選手と社会との間などで、依然として様々な暴力やイジメ、ハラスメントなどが存在する。本科目では、種々の場面で発生する意見の相違や対立状態に対して建設的に対処する方法や、その前提となる自身や他者を尊重することの意義を演習を通して学び、前述した課題の解決法を探る。また、それらとオリンピックの価値(「Excellence」「Respect」「Friendship」)や平和との関連について理解を深める。 | (体育開設)【受入上限数120名】 |
| 1F90011 | Social nature | 1 | 1.0 | 3・4 | 春C | 集中 | | パークナー トーマス | Understanding coupled natural/environmental and human systems is fundamental to the quest for global sustainability. But, what is "nature" or "environment"? In this lecture, nature and environment are discussed as a social construct subject to changing perceptions. To bridge the gap between natural and social students, theories and concepts from both, natural sciences and social sciences, are presented, which are relevant for human-environment interaction research. Societal response options to environmental risks are exemplified for past civilizations. Climate change as a current threat is discussed from the natural science perspective as well as from deeply entrenched worldviews to explore complex environmental problems from a cross-disciplinary perspective. | 7/8-10 JTP |

総合科目III 科目群G

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-----------------------------|------|-----|--------|------|-----|-------|-------|--|---|
| 1G10011 | アカデミック・コミュニケーション1-伝えるための基礎- | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 月2 | 1C210 | 野村 港二 | これから、論文執筆や口頭発表の機会が増えるみなさんと、単なる発表のテクニックではなく、専門的な学問の内容を伝える際に必要なことは何かを一緒に考えます。論拠を持って、事実と意見を分けて、時には気持ちをこめて、伝えるためには、どんな準備が必要なのでしょう。 | (資源開設)平成23年度までの「テクニカルライティング」、および平成26年度以前に総合科目IIの1C10081 アカデミック・コミュニケーション1、1C10091 アカデミック・コミュニケーション2の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数120名】 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|---|------|-----|--------|------|-----|---------|--------|--|---|
| 1G10021 | アカデミック・コミュニケーション2-伝えるための基礎- | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 月2 | 1C310 | 野村 港二 | 口頭発表の原稿と、論文の原稿は、どのように書き分けるべきでしょうか。スライドやポスターなどの効果的なデザインとはどのようなものでしょうか。そして、そもそも伝わり、分かるとは、生理学的にはどのような脳の活動なのでしょうか。この講義では、専門的な内容を誰にでも伝わるように発信するという、高学年生に必要な考え方や方法を紹介します。 | (資源開設)平成23年度までの「テクニカルライティング」、および平成26年度以前に総合科目11の1C10081 アカデミック・コミュニケーション1、1C10091 アカデミック・コミュニケーション2の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数120名】 |
| 1G24014 | グローバルリーダー養成講座 | 4 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 火5 | 5C316 | 竹村 富士徳 | 自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学での目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。 ・文化や慣習の違いの仕組み、価値観や信念形成の仕組みについて理解する。また、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。 | (体育開設)【受入上限数120名】 |
| 1G26031 | 社会基礎学II-「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成:世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 集中 | ユニオン講義室 | 坪内 孝司 | 世界は、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、ICT等、先端技術の進歩などにより、人材・情報・資金が国境を越えて行きかっています。同時に国は勿論のこと、国内の地域や都市の間でも競争が激化しています。このため、地球環境問題や資源・エネルギー問題など、世界にまたがるグローバルな課題に的確に対処していくことが求められています。また、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいるわが国で、豊かな生活と産業の発展の鍵を握るのは、地方の活性化であり、地方で活躍し、輝く若い人材が求められています。 この激動の時代を生き抜く学生の皆さんが、「国際社会と地域社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むためには、本リレー講義では、高年次の学群生を対象に、これまで学んできた教養や専門性を基礎に、社会で活躍する上において求められる総合的な基礎力や想像力、構想力、分野を超えた広い視野の向上をサポートします。 講義のキーワードである、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か?」、について理解し、様々な課題に対して強い関心と好奇心を持ち、グローバルと地方創生の時代に果敢にチャレンジし、活躍できる人材を目指すことを期待します。 | (教育企画室企画) 10/5, 10/12, 11/9, 11/23, 12/7 【受入上限数200名】 |